

〈翻 訳〉

アメリカン・ボード宣教師文書

——同志社女学校女性宣教師を中心として——

〈M. F. デントン書簡一訳および註一〉 (11)

阪 上 敦 子 監訳
松 波 満 江
吉 岡 弘 子
小 島 紀 子
矢 吹 世紀代
檜 本 尚 美
竹 田 清 子
柿 本 真 代

書簡翻訳：前号からの続き

〈デントン書簡 289〉 【松波満江 訳】

同志社女学校 日本 京都

1907年11月8日

拝啓 バートン博士

太平洋ウーマンズ・ボード¹から原田社長宛²の手紙が届くのを待っております。ボードから [今、それを] 準備しているという便りはいただきました。太平洋ボードのご婦人方がどのようにお考えかはお存じでしょうし、彼女たちが最善の策を思い描けるようにお手伝いいただければと存じます。[太平洋ボードが] アメリカン・ボード³から我が校の隣の建物⁴を購入するのを拒んでいることはとても嬉しいことです！同志社所有の不動産⁵はどれも欲し

くありませんし、この建物⁶を取り壊した後、[東部] ウーマンズ・ボードは太平洋ウーマンズ・ボードを代表する宣教師用にはどのような「建物」も所有しない方がよいと思います。太平洋ウーマンズ・ボードからの非公式の手紙に要点が述べてありますが、そこに記載の「条件」⁷を私たちは皆喜んでおりますし、よいと信じています。「太平洋ボード」は委員会の決議の報告を受け取っており、原田社長がそれに目を通しての間に、ジュエット夫人⁸から9月10日に送られてきた手紙の内容もお伝えしました。原田社長は、これらすべての条件は自分の考えとすべて一致していると話しています。

教師の任命は次にとても重要な問題です。ラーネッドさん⁹の「任命」については手違いなどなく、出来るだけ早く届くように気を付けていただけませんか。1908年1月1日には仕事に就いてくださることをあてにしています！—オルチンさん¹⁰のお気持ちをどうか聞き出してくださいませんか？もし彼女が任命を受諾するなら、いつ来れるでしょうか？この2件はとてもとても重要な問題です。この人たちが[女学校で]仕事につくまではアメリカに帰りたくありません。オルチンさんが来ないなら、言い換えると、彼女のために何とか[金銭的な]支援が見つかり[音楽の勉強を続けられるなら]、コネティカット州ハートフォード神学校のルース・ホームズ・ベックウイスさん¹¹をこの学校のために頼めないでしょうか。ぜひともベックウイスさんをここに欲しいのです。ロサンゼルス第一教会は日本への派遣を考えてくれるでしょうか。バートン博士、彼女には他のどんな場所も考えないでください。日本には宣教師は必要ないというような印象が感じられるのですが、まさか！！

女学校の土地と北側で繋がっている400「坪」の土地を買ってください。2棟の北側の寮¹²の近くです。そして同志社ではなくミッション¹³がその土地を所有してください。私が住んでいるこの建物¹⁴が、新しい校舎建設¹⁵の場所を作るために取り壊されるとき、私たちの側[デントン居住の東翼部分]をこの新しい北側の土地へと移築して、土地と建物がミッション所有に

なればと思います。もちろん、1万ドルの校舎¹⁶は同志社女学校への無条件の贈り物になるでしょう。私が住んでいますこの部分〔東翼部分〕は、〔東部〕ウーマンズ・ボードが所属の女性宣教師が使うために建設されたものです。太平洋ボードがその仕事を引き継ぐわけですから、その建物を使う同じ権利があると言えるでしょう。これは「合意」¹⁷では言及されていなかった建物だということをどうか忘れないでください。アメリカン・ボードの9軒の建物〔宣教師館〕¹⁸だけがその折に取り上げられていたのです。その当時、女学校の教師と職員は同志社を離れ、ミッションの側に立つことにしました。

原田社長は〔太平洋〕ウーマンズ・ボードが北側の土地を買うことを強く望んでいますし、私たちに何も明け渡してほしいなどきっと思っていないでしょう。そして何度も何度も繰り返して、ボードが請求権を持つと思う財産に〔同志社は〕所有権を決して主張しないし、するつもりもないとおっしゃいました。ボードのご婦人方は私に「思いの丈を書く」ように求めてくれましたし、この点についてはそうさせていただきたいと強く感じています。そしてすぐ隣のアメリカン・ボードの家屋¹⁹をウーマンズ・ボードが絶対に買わないで、この北側の土地をすぐに確保してくれることを願っています。今ならここは1,600円金貨800ドルで買えますが、現在地価は上昇して価値も上がってきていますので、この値段ではもはやこの先、手に入らなくなるでしょう。太平洋ボードがアメリカン・ボードの家屋を購ししないとの公式の書面を受け取れば、〔日本〕ミッションはきっとこの土地取得を要請する採決をすることになるでしょう。もし私が募金活動支援のために帰国すれば、ボードはこの土地の購入資金とこの校舎の移築に十分な追加の募金活動もお許しくださることを願います。その他では、私たちにルース・ベックウイスさんはぜひとも必要ですからすぐにこちらへ来て貰えるようにいたします。

これは「公式の」というよりも「個人的な」手紙ですので、あなた様だけでなくバートン夫人やベル夫妻にもどうぞ宜しくと付け加えさせてください。

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. ウーマンズ・ボード (Woman's Board of Missions) はアメリカン・ボードと協力して活動する女性伝道団体で、東部 (WBM)、中部 (WBMI)、太平洋 (WBMP) に分かれている。太平洋ウーマンズ・ボード (Woman's Board of Missions of/for the Pacific) は西海岸の州を中心に活動し、同志社女学校の女性宣教師 (スタークウェザー、デントン、クラブなど) を支援した。
2. 原田助 (1863-1940) 熊本藩士、鎌田収の次男。1880年、同志社英学校に入学、後に神学科に転じる。卒業の翌年、1885年に按手札を受けて神戸教会牧師に就任。1888年渡米、シカゴ神学校、イエール大学に留学。帰国後、番町、平安、神戸の各教会の牧師を歴任。1907年1月から19年1月まで同志社第7代社長に就く (1918年9月28日以降は総長と改称)。同志社の大学昇格と発展に寄与した。1919年、総長を辞職。1920-32年、ハワイ大学東洋学部の教授に就任。
3. 原文では A.B.C.F.M. とある。アメリカ外国伝道協会 (American Board of Commissioners for Foreign Missions) の略。
4. 隣の建物とは、宣教師 G.E. Albrecht 一家が住んでいた住居で女学校の西側にあった。
5. 1900年前後の同志社騒動の後、同志社の所有物となった建物。註17も参照のこと。
6. 女学校最初の校舎でボストンを中心とした東部ウーマンズ・ボードが6,000ドルを募金して1878年に建設した。
7. 具体的な内容は不明。
8. Mrs. Jewett H.E. 太平洋ウーマンズ・ボードの第4代会長 (在任1890-1899)。第3代会長 Miss Lucy Fay の時代 (1883-1889) には同会の幹事を務めた。なお、1877年以来、新聞 *The Pacific* に毎週ボードの記事を寄稿していた。
9. Learned, Grace Whitney (1876-1962) Dwight W. Learned の長女。京都生まれ。1899年 Mt. Holyoke Seminary 卒業後、1900年から日本ミッションの準宣教師 (Associate Missionary) になっていたが、1908年1月に終身宣教師となる。1916年まで正式に同志社女学校で教える。同年、京都で Dr. William L. Curtis と結婚。1929年、夫が亡くなり伝道活動から引退。父の Learned については次の〈290〉註3参照のこと。
10. Allchin, Florence Stratton (1884-1958) 大阪生まれ。アメリカン・ボードの宣教師。ボストンのシモンズ・カレッジ卒業。1909年来日。京都ステーションには1910年から1911年の1年間在籍。同年 Charles W. Iglehart 牧師と結婚。父親

- もアメリカン・ボードの宣教師で大阪を中心に伝道した George Allchin (1852-1935)。日本の宗教音楽に多大な貢献を果たし賛美歌の編集者としても有名。
11. Ruth Holmes Beckwith 詳細不明。
 12. 新島寮と家政館のこと。新島寮は元々は同志社英学校創立当時の校舎である木造建築 2 棟（第一寮と第二寮）の内の第二寮である。この建物を1903年に女学校に移築した。1階の大教室は初代の同志社公会堂で、1880年4月、新島襄の「自責の杖」事件があった。（『同志社女学校期報』第24号、p. 11）一方の家政館は1906年3月に完成。家政科の学生16名が住む小さな寮で、半洋室、茶室、裁縫室、食堂、台所など12室があった。元は女学校の貸家だった建物を拡張した。デントンが「カセイカン」と発音したので「家政館」と呼ばれた。（『同志社女学校期報』第23号、p. 12）
 13. Japan Mission はアメリカン・ボードの日本での自主運営の現地組織で日本で働くアメリカン・ボードの宣教師は全員が所属した。日本ミッション開催の会合での決議が初めて日本ミッションの方針となったが、人事・財務・伝道方針などにはボードの承認が必要となったのでボードのボストン本部の幹事（Secretary）に日本ミッションの総意を伝え、幹事はその案件を運営委員会（Prudential Committee）に諮った。（吉田亮「総合化するアメリカン・ボードの伝道事業」『アメリカン・ボード宣教師—神戸・大阪・京都ステーションを中心に、1869～1890—』同志社大学人文科学研究所編、現代史料出版、1999、pp. 10-11 参照）
 14. 最初に建てられたコの字形校舎。東翼部分が宣教師の宿舎でデントンもここに住んでいた。この頃には女学校の生徒数が増えたため、西翼部分の寄宿舎がさらに増築されていた。
 15. 1912年8月竣工のレンガ造りの旧静和館（Pacific Hall）のこと。設計は武田五一。
 16. 旧静和館は実際には1万ドルでは建たず2万ドルが必要だった。
 17. 同志社とアメリカン・ボードとの間の不動産の帰属問題については1893年にアメリカン・ボードの在日資産の同志社移管に当たって結ばれた合意が1899年、両者の間で再確認された。つまり、ボードが京都の宣教師館を無償使用し、修繕費、租税を負担して1899年から30年間使用できることが定められた。次の註18も参照のこと。（『同志社百年史、通史編（一）』同志社、1979、p. 476）
 18. 同志社は創立以来アメリカン・ボードの経済的な援助に負っていたが、新島襄の死後、1895年ごろからアメリカン・ボードと様々な点で対立するようになった。その中の一つが京都で同志社が保有する9つの宣教師館の帰属についてであった。資金を出したのはアメリカン・ボードで居住していたのも外国人宣教師だったが、

当時、日本国内では法律により外国人の土地所有が禁止されていたため、同志社が表向きの所有者になったことが問題の発端にある。(『同志社百年史、通史編(一)』同志社、1979、pp. 462-463)

19. 前出の註4と同じアルプレヒト邸のこと。

〈デントン書簡 290〉 【阪上敦子 訳】

京都 同志社女学校

1907年11月17日

拝啓 パートン博士

数日前、私たちが要請していた校舎建設資金を太平洋ボードが募金してくれるだろうという最近のボードの報告を原田社長¹が聞いて、女学校の校務について私と話し合おうと来られました。社長にはまだボードからの公式書簡は届いておりませんが、あの報告書は読んでおられましたので、幹部委員会から私宛の手紙の一部を社長に読んで差し上げました。その中で幹部委員会は隣接する建物をアメリカン・ボードからは購入しないとのことでした。そこで再度その件について二人で話し合い、昨年の春、ミッションが理事会に提出して承認された決議に関連して、原田社長は、太平洋ボードの宣教師と女学校との緊密な関係を継続していきたいと私に確約しました(校舎を要請してボードに送った7月の手紙にその決議は載っています)。そして社長は、「誰の気持ちも傷つける」ような所有権の主張を絶対にしたくないという気持ちを強く述べ、そして最後にこの[同志社の]所有地に隣接する北側の土地は太平洋ボードが購入すべきだと提案しました。私が住んでいますこの建物²、それがこの東翼部分ですが、新校舎の場所を作るため壊さねばならなくなったときには、その北側の土地へ移転することになると提案しました。そしてその建物と土地は同志社ではなく、ミッションが所有すべきだと言いました!

原田社長はこれがやりたいのだとこれまでも何度も私に話してこられまし

たが、今はこれをボードがしてくれるようにとせかしています！決定を急いでいる理由は、その土地が市場価格よりも安くなっているのです。売れそうだとことです。今すぐには買わなければ、もっと払わねばならないでしょう。今ならその土地は金貨800ドルほどで確保できます。ラーネット博士³やギューリック博士⁴、そしてケリー夫人⁵にも相談しました（デビス博士⁶もその委員会の一員ですが、今は不在です）。皆さんはこれが私たちには願ってもないチャンスだと感じています。この建物が有名な合意にある9軒のうち1軒ではない⁷ということをご記憶にあるでしょう。ですから原田社長はこの件を「面子をつぶされる」ことなく言えるのです。

どちらにしても、京都にボード所有の建物を一軒所有することは素晴らしいことですし、太平洋ボードに送金して、その土地をすぐに確保して下さるように、そして同時にその建物⁸を移転する準備をするようにとバートン博士からお口添えをお願いいたします。移転には1,000ドル必要でしょう。でもそれはアメリカン・ボードの家を購入する費用よりは少ないでしょう。そしてご存知のように、その所有権はあと23年しか有効でなく⁹、太平洋ボードは金貨2,500ドルをこの所有権のために支払わねばならず、金貨1,500ドルと所有権は「社団」¹⁰すなわち、ミッションのものとなります。でも私たちがその土地を正式に登記をして取得するまでは新聞には掲載しないでください。非常に気を付ける必要がありますので、どうぞ注意して公にならないようお願いいたします。ご存知のように、噂の種になるのはとても簡単なことですので、くれぐれも内密にしてください。

この女学校の構内で校舎を建設できる場所は1箇所しかないというのが事実です。そしてその場所が、まさにこの建物と寄宿舎¹¹が建っているところです。両方とも傷んでいて建て直す必要があります。もしオルチンさん¹²を来年迎えるなら、それとも私たちが女学校で働いている限り、宣教師には「住い」が必要です。そして〔宣教師宿舎のある東翼の〕この建物がこの南側寄宿舎¹³に対してあるように、この新しい土地と2棟の北側寄宿舎〔新島

寮と家政館] との関係は同じになります。そしてアメリカン・ボードの建物より、私たちの仕事にはより近くてふさわしい処です。バートン博士、どうぞこの土地をすぐ確保できるようにお助けください。そしてその建物 [デントン居住の東翼] を移転する費用も援助してください。この件については数日前にも書きましたが、原田社長は今正式に私にこの土地と建物を確保するように依頼されました。これは私たちがお願いした建物¹⁴、それは [日本] ミッション¹⁵が男子校で教鞭を執っている男性用の住宅として本当に持つておきたい建物の代わりなのです。その件をお願いしたとき、北側のこの土地がこれほど手ごろな値段で購入できるとは全く思ってもいませんでした、この建物 [東翼部分] を移転させればそれをいただけるなど考えておりませんでした!

ご多幸を祈って

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. 原田助 前出〈289〉註2参照。
2. ここではデントンは自分が居住している宣教師宿舎の東翼部分を“this house in which I live-that is this east wing”と明記して分かりやすいが、“this house”や“the house”だけでこの東翼部分だけを差したり、コの字型校舎全体を差すときもある。
3. Learned, Dwight Whitney (1848-1943) 1873年イエール大学大学院卒業。1875年来日し京都ステーションに所属。52年余りに渡り同志社の教育に尽力。同志社大学初代学長。
4. Gulick, Orramel Hinckley (1830-1923) 父 (P.J. Gulick) の代からのアメリカン・ボード宣教師で、ホノルル出身。日本にはアメリカン・ボード2人目の宣教師として着任し、大阪・神戸で伝道した後、1892年帰国してからは本格的にハワイ伝道を開始した。
5. Cary, Ellen Maria (1856-1946) 1877年 Abbot Academy 卒業。同年結婚。夫は Otis Cary (1851-1932)。アメリカン・ボードの宣教師として1878年夫と共に日本に着任。神戸、岡山、大阪で、そして1892年から1918年は同志社で活動。同

- 志社女学校で英文法などを担当。夫についてはあとの〔BE-5〕の註5を参照のこと。
6. Davis, Jerome Dean (1838-1910) 米国ニューヨーク州生まれ。南北戦争に従軍後、ペロイト大学、シカゴ神学校を卒業して牧師となる。1871年来日。神戸、三田などに次いで京都に転じ、1875年、新島襄の同志社英学校設立に協力し、終生、神学教育と学校の維持発展に尽力した。
 7. 前出〈289〉註18を参照。
 8. 「この建物」とは註2にある宣教師宿舎の東翼部分のこと。
 9. 1899年に以前、アメリカン・ボードの在日資産の同志社への移管に当たって結ばれた合意（1893年）が再確認されて、1899年から30年間は京都の宣教師館の無償使用が同志社とアメリカン・ボードの間で定められた。このデントンの書簡が1907年であることから、あと23年ではなく22年あることが分かる。（『同志社百年史、通史編（一）』同志社、1979、pp. 466-476）
 10. “Shadan’ ie. Mission”と原文にあるが、ここでの意味は不明。ちょうどこの頃、以前の同志社騒動を受けて、ミッションを社団法人として届け出ているのであろうか。このあとのデントン書簡〔291〕でも、「近頃ではボードの所有地がすべてそうであるように、この土地と再建した建物をミッション『社団』の名義にすることです」とある。〈291〉註8参照。
 11. 「この建物と寄宿舍」とは最初に建設された女学校のコの字型校舎全体のことである。「この建物」はデントンがいた校舎東翼部分の宣教師宿舎を差し、「寄宿舍」とは西翼部分、すなわち生徒の寄宿舍のことである。
 12. オルチン 前出〈289〉註10参照。
 13. 南側寄宿舍とはコの字型校舎の西翼部分の寄宿舍のこと。女学校敷地外のこれから購入する北側の土地に隣接する2棟の寄宿舍、新島寮と家政館よりも位置的に南側にあった。
 14. 前出〈289〉註4のアルプレヒト邸のこと。
 15. 前出〈289〉註13参照。

〈ベル書簡 BE-2〉 【吉岡弘子 訳】

1908年1月1日

メアリー F. デントン

日本 京都

拝啓 デントン様

11月8日¹及び17日付²のそちらからの2通の手紙がそれぞれ届いているとバートン博士から知らせるよういわれました。手紙はあなたのご提案と原田社長³のご承認になったこと、つまり女学校の北側の土地を購入して現在の校舎の〔東〕翼部分をその土地へ移動させることについてです。バートン博士に手紙を書かれたとき、そのことはすでに太平洋ウーマンズ・ボードにも伝えられたと思います。ですが、当局からも太平洋ボードに手紙を送り、出来る限り詳細に事情をご説明して、ご婦人方から出来るだけ早くご意見を伺いたいとお願いしました。当方も出来る限り自分たちの熱意を示して誠実にそちらのお考えを伝えました。

太平洋ウーマンズ・ボードが同志社のために入手しようとしている校舎が、本当にスタートの時点から同志社の実際の資産になるかどうか、また現校舎〔コの字型の校舎〕が建っている土地、もっと詳しく言えばアメリカン・ボードの〔翼部分〕が建っている土地が、ボードの実質的資産と言えるかどうかは未だ明確になっていません。ただ言えることは、アメリカン・ボードの土地に対して議論の余地のない所有権を持つ唯一の方法は、デントンさんが提案されるような計画を実行すること、すなわち、アメリカン・ボードの名義で現在の同志社の敷地の外に土地を確保して、同志社の教職員と協同して働く婦人宣教師たちの住まいをそこに建設することでしょう。そして今即座に、秘密裏に売買契約を結ぶなら、その土地は比較的安価で入手できるということが分かっています。間もなく太平洋ウーマンズ・ボードの方からも何らかの明確なご意見があろうかと思えます。

お心のこもったクリスマスと新年のご挨拶を、大変有難うございました。本年が世界中の伝道事業にとって、真に恵まれたものとなりますようお祈り申し上げます。

昨日、委員会では高等教育のために200万ドルの寄付金を集めることが決まりました。この寄付金が集まると一もし集まるならば、とは言いませんが

—そのお金はより小規模の学校へ分配されるだけではなく、特に直接的な伝道事業の方へ多く向けられることになるでしょう。少なくともこのことは、ここ本国アメリカにいる者たちが熱心に望んでいることです。一般的な伝道事業への充当金はこれまで何世代にも渡り年々少なくなっており、まず第一に被害を被るのは、各ミッション周辺の伝道事業です。その結果、生活費を支給できないために、多くの有能な日本人の働き手を解雇したり、訓練を受けた最上の働き手を確保し損ねているという事態にもなっているのです。今、募金しているこの多額の基金により、多分何年もかからずにこの基金が獲得できて教育施設が整えられれば、明らかに教会の仕事に新しい命が与えられることを祈りましょう。

今日はまだ多くの手紙を書かねばなりませんので、この件はここで終わりいたします。[私たちのことを] お尋ねくださる同僚宣教師の皆さまへ愛をこめて、そして今後も私たちを信頼してくださいますように。

敬具

イーノック F. ベル

追伸 ラーネッドさん⁴へ給料を支給するという太平洋ボードの決議は、同志社女学校と [日本] ミッション⁵の要請に十分応えるものになるでしょう。同志社女学校がラーネッドさんを採用できて喜んでます。ラーネッドさんは特に真っ正直に歩み続けられ、生徒への影響力は日々変わることがなく、徹底したクリスチャン女性の影響力を発揮されることと彼女を知る者は確信しております。

敬具

E. F. B.

1. デントン書簡 [289] のこと。
2. デントン書簡 [290] のこと。

3. 原田助 前出〈289〉註2参照。
4. ラーネッド 前出〈289〉註9参照。
5. 日本ミッション 前出〈289〉註13参照。

〈バル書簡 BE-3〉 【小島紀子 訳】

1908年1月6日

メアリー F. デントン

日本 京都

拝啓 デントン様

あなた宛の最近の手紙¹の中で、オルチンさん²に関するご質問に答えておりませんでした。当局は太平洋ウーマンズ・ボードが女学校の音楽教師に給料を支給してくれると確信しています。しかし、支度金は言うまでもなく、旅費も支払ってくれるとは聞いておりません。今、そのような追加支出について、何らかの答えを早く出してくれるようにリチャーズさん³に催促しています。というのも、もし太平洋ウーマンズ・ボードが有期の音楽教師を派遣する際に必然的に発生する費用をすべて支払うことができないなら、そのような費用を通常の資金源から支出するのは当局が知る限り不可能だからです。

オルチンさんは、ご存知のように、提案された日本での仕事に向けて熱心に勉強していますし、初秋ごろには準備ができて出発するでしょう。当方では今、彼女の日本行きの書類を集めようとしています。

ハートフォードのブラウンさん⁴に関するあなたの手紙を、国内担当幹事のパットン博士⁵に手渡しましたので、もし一方の話がだめでも、もう一方の人を派遣できるかもしれません。音楽教師の任命については私には委員会の意図が全く分かりませんが、もしそのような人が通常の任命された終身宣教師でなく、「雇用された教師」⁶の身分で有期で派遣されても驚かないでしょう。しかしこれについてはどのような決定も正式に報告するには早すぎ

るでしょう。

敬具

イーノック F. ベル

1. ベル書簡 [BE-2] のこと
2. オルチン 前出 (289) 註10参照。
3. Richards, Laura M. 太平洋ウーマンズ・ボード第6代会長 (在任1904-1908)
4. Miss Brown 詳細不明。
5. Patton, Cornelius H. アメリカン・ボードのボストン本部役員、国内担当幹事。
6. 英文では“employed teacher”とある。ここでの“employed teacher”の具体的な身分については不明。アメリカン・ボードの *Handbook* (1920年版) によると、ボストン本部の Prudential Committee (運営委員会) が終身宣教師とは別に特定の施設で教育の仕事につく宣教師を「特別に任命された宣教師」(Especially Appointed Missionaries) として採用した。そして一定期間任命した者は Associate Missionary (準宣教師) とある。(*Handbook for Missions and Missionaries of the American Board of Commissioners for Foreign Missions* [1920年版] pp. 12-13)

〈デントン書簡 291〉 【矢吹世紀代 訳】

[1908年] 2月3日

拝啓 ベル様

1月6日付のお手紙¹でおっしゃっている「有期での音楽教師派遣」ということでしたら、それは考えておりません。むしろオルチンさん²あるいは(「ブラウン」³ではなく) ルース・ホームズ・バックウィスさん⁴を終身宣教師として太平洋ウーマンズ・ボードから派遣していただきたいのです。オルチンさんに有期での来日を依頼するなど初めから念頭にありません。そして太平洋ウーマンズ・ボードが終身宣教師以外では彼女を派遣しないことを願い、そう信じております。もちろん、それはウーマンズ・ボードが給料や支度金、旅費など全ての経費を支払うということです。ボードのご婦人方は当

然それを分かっておられるでしょうし、そうした支援をいつでも始めると考えておられることでしょう。そして、ロサンゼルス第一教会はバックウイスさんを全面的にサポートしてくださることを願います。

1月6日付のお手紙⁵では「まだはっきりとは決まっていない」とお書きになっていますが、お答えします。—「太平洋ウーマンズ・ボードが手に入れようとしている校舎⁶」は最初から実際に同志社の所有になるはずです。太平洋ボードの「翼部分」が建っている土地こそが唯一、新校舎建設可能な場所になります。何よりもまず今できうる最善のことは、これまで手紙で書いてきました〔北側の〕土地⁷を購入し、新しい土地にこの〔東〕翼部分を再建して、近ごろではボードの所有地がすべてそうであるように、この土地と再建した建物をミッション「社団」⁸の名義にすることです。この広い不動産を実際に自分たちの土地として所有できることは大きな収穫です。この土地の購入資金をすぐにラーネッド博士に送金していただけると信じております。その建物が建つこの土地は、本来ならウーマンズ・ボードの資産のはずなのですが、今はこれについて話すのは控えます。

この建物を手に入れることでよい出発点になったと思います。〔同志社の敷地の外に〕別の土地を買ってその上にこの建物を移築すると、ボードは京都で何らかの実際の不動産を持つことになります。新旧の校舎は実際に同志社自身の資産になるべきものです。そして太平洋ウーマンズ・ボードが提案した条件⁹に同志社理事会が賛同するなら、両者にとって所有権問題はこれで決着したと考えるのが一番よいと私は確信しています。

この多額の寄付金を集めるために力を尽くしてくださることをとても嬉しく思い、そのご成功を祈っております。しかしこの学校の事業はまったく完全な「伝道」であり、「明らかに教会の仕事」も担っていると考えております。ほかのどこでこれ以上多くの聴衆が集められるでしょうか。ここ同志社よりも大きな教会が集められるでしょうか。京都を出て日本国内どこに行っても教会活動の先頭にいるのは、必ず同志社の男女卒業生です。私たちの仕

事が日本にもたらしている意義をもう一度思い起こしていただくためにも、別便でお送りしている以前の報告書を読み返していただきたいです。

今、原田社長¹⁰、中瀬古校長¹¹、松田先生¹²がおられてラーネッドさんの来日大きな励みとなり、オルチンさんそしてホームズ・ベックウィスさんのお二人の来日やすばらしい新校舎への期待で、ベルさん、私はこの大好きな女学校のこれからを思うと胸が高まります。日々よくなっていく女学校を目の当たりにして、こんな輝かしい将来が約束されているのです！このように考えますと、今、最も必要としているものに立ち返ってしまいます。そしてそれは新しい土地の購入資金です。どうかどうぞかぜひとつもすぐにその資金をお送りください。

次回手紙を書く際には「ボード所定の便箋」に「片面にだけ」書くようにいたします。この手紙を書き始めたときは、あなたのステーション、つまり京都〔ステーション〕から、「賜暇で帰国中」のベルさんとベル夫人宛の単なる私信でしたが、近い将来、京都へまたお迎えできるのを心待ちにしております。お二人のお力がどんなにか必要かご存知でしょう。

お二人に愛を込めて

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. 前出 [BE-3] のこと。
2. オルチン 前出 (289) 註10参照。
3. 前出 [BE-3] で Miss Brown と名前を間違えている。
4. Ruth Holmes Beckwith 詳細不明。
5. 1月1日付のベルの手紙 [BE-2] に “It is not yet clear” とあったのを、デントンは1月6日付と間違えている。
6. レンガ造りの旧静和館 (Pacific Hall) のこと。太平洋ボードからの資金で1912年8月竣工。この新校舎を建設するには、まずその予定地に今ある女学校最初の古いコの字型校舎を移動させて場所を作る必要があった。
7. 女学校の北に隣接する400坪の土地のこと。

8. 英文では“Mission‘Shadan”とあるが、詳細不明。社団法人のような組織のことか。前出(290)註10も参照のこと。
9. この条件の具体的な内容は不明。
10. 原田校長 前出(289)註2参照。
11. 中瀬古六郎(1870-1945) 奈良県吉野郡上北山村出身。1885年、同志社英学校入学、1889年卒業後、ハリス理化学校に入学。アーサー・ジェームズ氏の庇護を受けて、1896年に渡米、ジョンズ・ホプキンス大学とイエール大学院に学ぶ。帰国後は同志社で長年教員を務める。女学校の教頭(1908-12年)、校長(1918-22年)となって、女子教育の高等化に尽くす。理学博士。日本における科学史研究の先駆者。
12. 松田道(道子)(1868-1956) 京都府峰山の裕福な呉服商の家に生まれ、小学校卒業後「京都女学校及び女紅場」に入学。卒業後、英語の勉強のため1884-86年、同志社女学校英書科に、そして1892-93年には高等科に在学。更にフェリス和英女学校で勉強を続ける。津田梅子主唱の「日本婦人米国奨学金」第1号受給者に選ばれて1893-99年渡米。プリンマー大学で学位を取得した。帰国後、同志社女学校初の女性校長(1922-30年)、女専校長(1931-33年)の他、理事、同窓会長、寮務主事などを歴任した。

〈ベル書簡 BE-4〉 【榎本尚美 訳】

1908年2月11日

メアリー F. デントン

日本 京都

拝啓 デントン様

学校に隣接している土地を購入し、今住んでおられる校舎の〔東〕翼部分をその土地へ移転する費用拠出のご要請に対して、太平洋ウーマンズ・ボードから返事が届いています。既にそちらにご報告しましたように、当局ではその費用を早急に送る必要があることを明確に伝えようとしてきました。そして太平洋ボードのご婦人方はその計画に心から共感してくださり、出来ることなら必要な額の基金で、その費用を喜んで支払ってくださったらうということが、とても容易に見て取れます。しかしこの時点では太平洋ボードはこ

の件を断らざるをえませんでした。

これが当方で唯一資金を調達できる望みの綱だったのです。というのは、アメリカン・ボードには、デントンさんご提案の計画を実行するだけの資金を募金できないということが最初から確かでした。この国ではどこにもお金がないようだという事からして、太平洋ボードのご婦人方は、これから数か月の間にデントンさんを訪ねるかもしれない旅行者から必要額を募金できるのではないかと提案しておられます。

こんなことを書かなければならないなんて、どれほど残念に思っているか、申し上げられません。なぜなら人生の長い年月を女学校を築き上げることに捧げ、そのお心を学校の最高の利益のために捧げてこられたあなたにとって、どんなに失望することか我々には分かっているからです。

新校舎への1万ドルの募金協力要請を始める前に、太平洋ボードのご婦人方は、原田社長¹に送った手紙で示した条件への返答を待っておられるというのを聞いています。

オルチンさん²関連の書類は当分はすべて手元にとどかないようです。彼女の友人たちは健康診断書を請求する前に、オルチンさんにまたすっかり元気を取り戻して欲しいと願っています。

敬具

イーノック F. ベル

1. 原田社長 前出 (289) 註2 参照。
2. オルチン 前出 (289) 註10参照。

〈ベル書簡 BE-5〉 【竹田清子 訳】

1908年4月6日

メアリー F. デントン

日本 京都

拝啓 デントン様

この手紙がお手元に届く前に、土地購入と女学校の西翼部分¹再建に対する太平洋ウーマンズ・ボードからの500ドルの補助金について、聞いておられることでしょうか。この500ドルでご計画をやり遂げることが出来るのではないのでしょうか。[この件に関し]ステーションやミッションの正式の承認を得ることについては話しておられませんが、その点は全く問題はないと思います。同志社のためにこの新しい建物²を建設できて、さらに正真正銘アメリカン・ボードの土地にあなたの住まいが建つとはなんてすばらしいことでしょうか。

「京都ステーションのベル夫妻」宛のデントンさんからの1月6日付³のお手紙を拝受いたしました。このような手紙がもっとくればと思います。というのも、いつも「幹事」として扱われるのは時として気になることもあります。本部に手紙を書いてくる宣教師は、委員会に出す事務的な案件がある人や、事務的なことで意見を求めてくる人たちばかりです。それに対して、当方の意見はほぼすべて否定的なものにならざるをえません。本部では財政的な制約で四方八方がんじがらめになっているのです。

デントンさんにはこういう状況はお分かりいただけるでしょうし、友人たちとの自由な交流をいつも喜んでいた人間が、事務的な言い回しの枠内に閉じ込められ、縛られてさえいるのがどんなにか苦しいことか、ご理解いただけるでしょう。言い換えれば、世界中の宣教師の友人に絶えず「ノー」を言わなければならない、また同時に真の友情に溢れた手紙をめったに受け取ることもない幹事は、まるでバチカンにいる教皇のようだと感じるのです。「されど余は云はん、我に自由を与えよ、しからずんば死を与えよ⁴」といった心境です。教皇の日常がそのようなものであるなら、私はそんな生活を送りたくありません。

しかし、私たちは皆忙しい宣教師ですので、友情は当然のこととして、それを表す言葉を行間に求めなければなりません。ですが、以前の宣教師仲間

からいただく手紙には言葉に言い表せないほど嬉しいのです。

ケリー家⁵、ダニング家⁶、グリーン家⁷の人たちともまもなくお会いできるでしょう。時々、デフォレスト家⁸やペドレー家⁹の人たちをお見かけします。この人たちを見かけるたびに何かしら心の琴線に触れるものがあり、また以前の勤務地に戻れたら、と願っている自分に気づかされます。

でもどうしてずっとこのように書き続けているのでしょうか。もしかしたら私がここ本部事務室でのこの仕事が好きではないと思われるかもしれませんが、実際のところ、この仕事大好きですし、現場の宣教師の仕事の次に、世界ではかの何よりもこの仕事をしたいです。この仕事は人が望みうる中で、一緒に仕事ができる最上の人たちの集りです。この仲間は絶えず励みや向上心を与えてくれ、精一杯最高の目標に向けて刺激を与えてくれる人たちです。もし、会衆派教会がすべてそのような霊的な精神や能力のある人々によって導かれるなら、国内外での伝道のさまざまな問題は解決により近づくでしょうし、同志社のような学校は十分に設備が整えられ、寄付も集まることでしょう。

すべての友人に心からの敬意を持って

敬具

イーノック F. ベル

1. 西翼部分も移築改修されて平安寮になったが、古いので建て替えに近かった。
2. 平安寮のこと。1909年12月4日落成式が行われた。
3. 1月6日付のデントンからベル宛の書簡は見つかっていない。
4. “but as for me, give me liberty or give me death!” これはアメリカ建国の父と云われ、弁護士で政治家でもあった Patrick Henry (1736-1799) が1775年3月23日に行なった有名な演説の結びの一節。イギリスの支配に異議を唱えるニュー・イングランド地方の抵抗運動に彼の出身地であるバージニア植民地も参加すべきだと訴えた。
5. Cary, Otis (1851-1932) 1872年アーモスト大学卒業後、1877年アンドーバー神学校卒。同年、按手札を受ける。1878年、アメリカン・ボード宣教師として来

- 日。神戸、岡山、大阪を経て1892年から1918年まで京都で活動。同志社神学校教授として、教会史、説教学、社会学を担当。また神戸女学院初代理事長も務めた。
6. Dunning, Morton Dexter (1872-1963) アメリカン・ボード宣教師。1896年アーモスト大学卒業後、1899年ハートフォード神学校卒業。1899年7月、Mary Kingsbury Ward と結婚。同年10月按手礼を受ける。1902年来日。1919年まで日本で活動。1906年から同志社普通学校で教える。
 7. Greene, Daniel Crosby (1843-1913) 1869年アンドーバー神学校を卒業後、アメリカン・ボード最初の宣教師として来日。神戸に赴任。聖書翻訳委員となって横浜に移り、新約聖書の翻訳に従事。完成後、1881年に同志社英学校教授となり、神学、旧約聖書、英文学を講じた。
 8. DeForest, John K. H. (1844-1911) アメリカン・ボード宣教師。1874年来日。大阪で伝道。のち仙台の東華学校の創立に尽力、東北地方に伝道した。
 9. Pedley, Hilton (1862-1930) カナダ出身、アメリカン・ボード宣教師。1888年マギル大学卒業後、モントリオール大学でも研鑽。1889年来日して新潟に赴任。1900-18年、前橋に滞在して同地方の伝道に携わる。その後、アメリカン・ボード在日宣教師団の主事となり京都に在住。日本組合基督教会とアメリカン・ボードとの協力関係を促進し、この間、1913年からは同志社理事を務める。1930年引退。

〈デントン書簡 292〉 【柿本真代 訳】

京都

1909年6月8日

拝啓 パートン博士

ペドレーさん¹がこの報告書をタイプで仕上げるように私に返却してくれました。そしてこれがその報告書です。これを読んでお知りになりたいことがご理解いただければ幸いです。

待ちに待ったオルチンさん²が来てくださることになり、とても喜んでいきます。彼女の採用に向けて、私たちのためにご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

ここ京都ステーションでは皆元気にやっております。ラーネッド博士³は昨年よりもずいぶんよくなりました。病身であっても、一人分以上のお働

きをなさるのです！私たち「昔からいる宣教師」はラーネッド博士が私たちのため、そして仕事のためにどれだけ働いてくださってきたことか、とても言葉では言い表せません。博士が十分に得られた愛、敬意そして信頼をあなた様からも必ず捧げてくださるようお願いいたします。

同志社の中の女子部、すなわち女学校はとてもすばらしい状況で、調和と熱意に満ちています。今来られて御覧になればいいのに、と思います。教頭先生⁴は私たちの予想をはるかに超えてよくやってくさっています。そして世界中で富森夫人⁵に匹敵するほどの舎監は、他の学校にいるのだろうかと思うぐらいです。上級生は下級生に本当の姉妹のように接し、下級生の心にキリストを信じる心が育まれるように取り組んでいます。

感謝を込めて

メアリー・フローレンス・デントン

1. Pedley, Hilton 前出〈BE-5〉註9参照。
2. オルチンは1909年6月9日神戸着、12日には女学校に初登校して歓迎を受けた。だがその後は、「多分、翌年3月頃までは東京で日本語を勉強し、春ごろから音楽教師に就任予定」との記載がある。（『同志社女学校期報』27号、p. 22）しかし、実際に着任したのは1910年6月15日で翌日から授業を始めた。（『同志社女学校期報』29号、p. 6）他に、前出〈289〉註10参照。
3. ラーネッド博士 前出〈290〉註3参照。
4. 原文では Our Dean となっている。当時の教頭、中瀬古六郎を指す。教頭在任期間は1908年4月から1912年6月。当時の教頭は校長と同じ権限があった。前出〈291〉註11も参照のこと。
5. 富森幽香（1865-1949）書道家として知られる巖谷一六（修）の次女で、滋賀県水口生まれ。東京女学校に入学、のち跡見女学校で学ぶ。関西鉄道会社の西村篤と結婚、死別したのち水口伝道所の女性伝道師となる。牧野虎次の推薦で1907年3月から平安寮舎監となり、1930年8月まで25年にわたって在職した。（中嶋静恵「富森幽香」『同志社時報』34、1969年3月、pp. 60-64）

〈バートン書簡 B-20〉 【竹田清子 訳】

1909年7月8日

拝啓 ペドレー様

日本ミッション年次報告書と組合教会¹統計資料を拝受いたしました。
これらは出来る限り早急に拝見いたします。

敬具

ジェームズ L. バートン、幹事

1909年7月8日

拝啓 デントン様

同志社の年次報告書と京都 [ステーション] の教育統計資料を同封の書簡
と共に拝受いたしました。出来るだけ早急に拝見いたします。

敬具

ジェームズ L. バートン

1. 組合教会と会衆派教会について。アメリカ最初の海外伝道者派遣団体であったアメリカン・ボードは創立当初（1810年）超教派であったが、徐々に会衆派教会によって支えられる伝道団体となった。従って、アメリカン・ボードが支援する教会は大筋において会衆派教会である。一方、日本では、会衆派教会を全国に広めるために、まず「日本基督伝道会社」（1878年）を設立し、その会社を通して設立された諸教会を繋ぐ輪として「日本組合基督教会」（組合教会、1886年）が成立した。以後、1941年6月の「日本基督教団」成立までは、日本における教会組織上、「会衆派教会」は「組合教会」と呼ばれた。